

京都市立工業高校の再編に関する基本方針について

平成24年12月に提出された「京都市立工業高校将来構想委員会」の「最終まとめ」においては、「将来にわたる学校規模の確保」及び「行政資源の効率的・効果的な活用による施設設備の充実」という観点から、市立工業高校の再編が提言されている。こうした提言を踏まえ、下記の方針のもと、京都市立洛陽工業高校及び伏見工業高校を統合し、「新しい工業高校」として再編する。

記

1 再編により創設する「新しい工業高校」の基本コンセプト

(1) 目指す人材像

工業に関する専門的・先端的な知識と技術の定着を図り、高校卒業後に「ものづくり」の現場を支え、広い視野での「ものづくり」を通じて社会の発展に寄与する人材の育成を主として目指すとともに、大学等に進学する者にとっては、加速度的に変化・発展する「ものづくり」を担う人材としての素地を培う教育活動を展開する。

(2) 教育目標

「京都市立工業高校のあり方に関する検討プロジェクトのまとめ」（平成22年7月20日）における提言を踏まえ、「ものづくり」を通じた豊かな人間教育の実践や社会貢献への意識啓発を取組の基盤としつつ、以下の資質・能力の育成を目指す。

- ア 「ものづくり」を通じた勤労観・職業観の醸成
- イ 将来の夢に向かってチャレンジするための将来設計・計画実行能力
- ウ 自己の生き方を主体的に選択する能力
- エ 環境変化に機敏かつ柔軟に対応できる課題解決能力

(3) 教育活動

今後、両校の教職員及び教育委員会の職員で構成するプロジェクトを設置し、取組のさらなる充実を図るため、以下の4点を具体的に検討していく。

- ア 科学・技術・工学・数学の一体的な「ものづくり」を目指すSTEM教育を踏まえた新たなコースの設置
- イ 優れた技術力を有する産業界、知の集積拠点である大学等、京都ならではの教育力の積極的な活用
- ウ 環境やエネルギー、防災・減災など喫緊の社会的課題の解決を含め、「持続可能な社会」の実現に向け果たしていく「技術」の役割と、「技術」が「社会」の発展を支え、人類の幸福に貢献することを学ぶ取組の充実
- エ 京都やわが国はもとより、世界の文化や伝統、生活など社会の多様性を学ぶ取組の充実

2 施設・設備

魅力的な「ものづくり」教育を推進し、世代を越えた「ものづくり教育の場」としての役割を果たすため、基本的な技術・技能の修得はもとより、新たな技術革新にも機敏に対応して教育実践を進めることができる施設・設備を整備する。

3 整備候補地

「新しい工業高校」の整備候補地については、次の観点を考慮し、学識経験者等により構成する委員会を設置し、検討を進める。

- (1) 洛陽工業高校及び伏見工業高校の現敷地について、敷地面積の広狭、交通の利便性、埋蔵文化財の包蔵状況、所要経費等を比較・検討する。
- (2) 洛陽工業高校及び伏見工業高校の現敷地での整備については、大規模な工事に伴う長期にわたる教育活動への影響及び仮設校舎設置に伴うグラウンド利用制限等が見込まれるため、本市が利活用に関する照会を受けている立命館中学・高等学校（京都市伏見区深草西出山町）について、地理的条件や施設状況、教育環境、工業高校として求められる実習室への改修の適否等を調査のうえ、候補地としての活用の可否を検討する。

<添付資料>

- 資料1 「京都市立工業高校将来構想委員会」の「最終まとめ」について【概要版】
- 資料2 「新しい工業高校」整備候補地の現状について
- 資料3 京都市立工業高校改革の経過（平成16年度～）